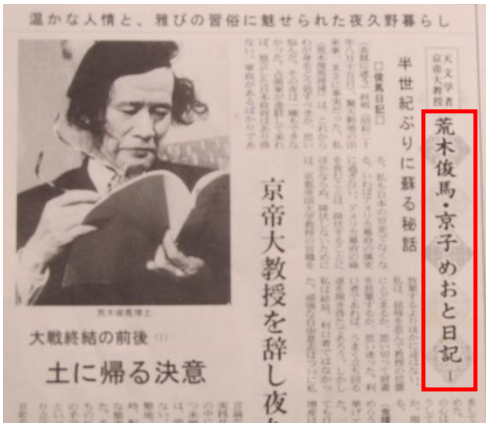
コラム

編集・発行：金浦区広報係
発行日：２０２３．６．

天文学者　荒木俊馬と夜久野

去る５月２１日（日）午後2:００より、夜久野町ふれあいプラザ・ホールにて「まちづくり講演会」が開催されました。講師は、京都産業大学大学史編纂事務室の髙田祐介さん。見出しにある演題で、荒木博士の誕生から青年期の足跡、研究者・教育者としての歩み、そして聴講者の最大の関心事である、夜久野町で戦後９年間をご家族と共に過ごされた頃の生活振りや村の人々との交流、教育・文化交流など、資料と映像を交えながらお話されました。

荒木博士のことは、平成３０年に金浦区自治会が発行した「金浦の歩み」にも掲載していますので、久し振りにこの冊子を開いてみてください。



荒木博士のもの凄さを改めて知りました。幾つか紹介しますと、①大正１１年京大で相対性理論を唱えた２０世紀最大の理論物理学者アインシュタイン博士の講演の後に学生代表としてドイツ語で歓迎の辞を述べる。②荒木博士の教え子からはノーベル賞受賞者である湯川秀樹・朝永振一郎氏を輩出。

③９年間の夜久野時代での著作（初版のみ）は約５０冊にも上る。　④中でも児童書「大宇宙の旅」は漫画家：松本零士さんが宇宙に興味を持つきっかけとなった愛読書です。

「京都帝大教授の職を擲（なげう）ちて目指すは夜久野の開拓農民」
「鄙（ひな：田舎）には稀な学者村長と祖父の名の記されゐ（い）る博士の疎開日録（にちろく：日記）」

この短歌に詠まれている祖父とは、旧東河村の助役・村長だった藤原東川（とうせん）さんで、但馬が生んだ土の歌人と称され、若き日に歌人若山牧水に師事されていました。

この方のお孫さんが中島眞喜子さんとおっしゃって但丹歌人という短歌誌を発行されています。祖父の記憶を辿りながらめおと日記に記されている荒木博士との親交に思いを馳せながら１５首を詠まれた内の２首をここに紹介しました。

「荒木俊馬・京子めおと日記」は夫妻の膨大な日記の中から、戦後の夜久野で、地域に溶け込んだ９年間の「めおと日記」の抜粋として両丹日日新聞が５０回にわたって連載したものです。豊かな人情と、雅の習俗に魅せられた夜久野暮らしがとてもよく分かります。

とてつもない頭脳と実行力で夜久野の人々に多大な影響を与えた荒木夫妻。教育・文化を大切にする礎が今も脈々と流れています。

「日記」と「大宇宙の旅」の問合せは金浦区広報係（電話　676－3727）まで。